

陸上、ソフトテニス、柔道、卓球で優勝

七月二十六日、二十七日の二日間、第三十二回県中学校総合体育大会が県内各地で開催され、白根第一中学校がソフトテニス男子個人、柔道の男子個人戦一階級、卓球男子団体、個人で優勝。白根北中学校は陸上の女子走り幅跳びで優勝を飾りました。優勝した皆さんの声を紹介します。

陸上



二宮千愛さん (白根北中学校3年) 女子走り幅跳び

北信越大会出場を決めたものの、全国大会参加標準記録を突破できず、悔し涙を流した二宮さん。今後の目標を「高校でインターハイ出場を目指します」と笑顔で話してくれました。気持ちは常に全国です。

ソフトテニス男子個人



牧野俊君(左) 外川昭太君(右)

「地区大会では三位だったので、県で優勝できてうれしかったです」と元気に答える外川昭太君と牧野俊君。二人とも小学四年生からソフトテニスを始めました。ペアを組んだのは中学一年生の冬からです。後衛の外川君は、鋭いストロークで相手の取りにくいコースをねらいます。前衛の牧野君は、センスのいいボレーやスマッシュなどを自由自在に打ち分け、相手コートに沈めます。二人はこの得意技を武器に勝ち上がっていきました。決勝戦は同じ一中同士。「普段一緒に練習してるから、やりやすかったです」と笑顔の二人でした。

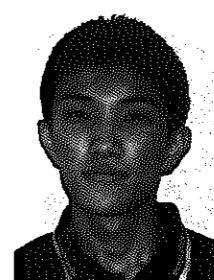
柔道



田村貴成君 (白根第一中学校3年) 男子個人90キロ級

三年連続で優勝に輝いた田村君。圧倒的な強さで三回目の全国大会出場を決めました。優勝に対して「うれしかったです」と話した後、「全国は何が何でも優勝するしかありません」と決意を新たにしています。

卓球



籠島隼介君 (白根第一中学校3年) 男子シングル

昨年に続く優勝を果たし、連覇を達成した籠島君。「優勝はねらっていましたが、負けられないというプレッシャーもありました。優勝が決まったときはほっとしました」と振り返ってくれました。

卓球男子団体



白根第一中学校卓球部は、十一人ぶりの優勝を果たしました。試合はシングル四人、ダブルス一組で対戦。シングルは主に籠島隼介君、佐藤豊君、岡田貴仁君、田巻裕介君が務め、ダブルスは藤井学君、大矢和徳君、小林歩君、尾竹雅人君が対戦校によって組を変えます。優勝が決まり「うれしかった」と声をそろえるメンバー。一方で「決勝リーグの初戦は緊張した」と、五番手で試合をした田巻君は振り返ります。顧問の西山克幸先生は「プレーをしている選手と、応援している選手が団結していました」と勝因を話してくれました。

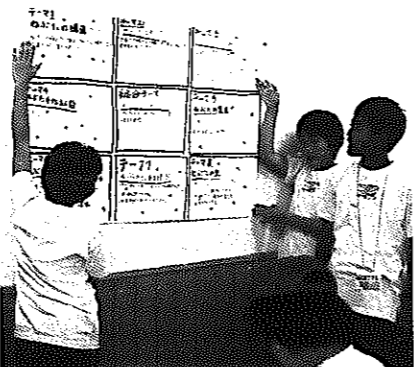
TOPICS

ねぶた祭りの魅力を探す旅

夏休み「これが祭りだ！ねぶた祭り体験ツアー！」

八月一日から四日までの四日間、白根地域の小学五・六年生三十七人が、ねぶた祭り体験ツアーに参加しました。主催したのは(株)白根青年会議所で、過去四回、青少年育成事業の一環として、夏休みに研修事業を行っています。

今年も文化的な体験をテーマに、このツアーを企画。「本州最北端の街に、六日間で三百万の人々が訪れるねぶた祭り。なぜそれほどまでに人々を引きつけるのかを、ぜひ子どもたちから、体験を通して考えてもらいたい」と、理事長の笹川さん



ねぶた祭りの魅力を紹介します。

青森市到着後、早速子どもたちは、「ねぶた祭りとは何か」や「青森市民にとってのねぶた祭り」など、自分たちが決めたテーマを基に街中に出掛け、商店街の人や観光客、外国人にインタビューを開始。いろいろな人の意見や、歴史について二日間かけて研究しました。

発表会では、「ねぶた祭りの良さとして、衣装を着ればだれでも参加できる」や「多くの人の協力で、成り立っている祭り」などたくさん研究結果が発表されました。

最後の夜、子どもたちは法被姿となった、ねぶた祭りを体験。法被に付けた鈴をにぎやかに鳴らしながら、迫力ある武者人形の前を「ラッセラー！ラッセラー！」と周りのハネトたちと一緒に飛び跳ねて、祭りを楽しんでいました。



念願の全国大会へ出場

オール庄瀬

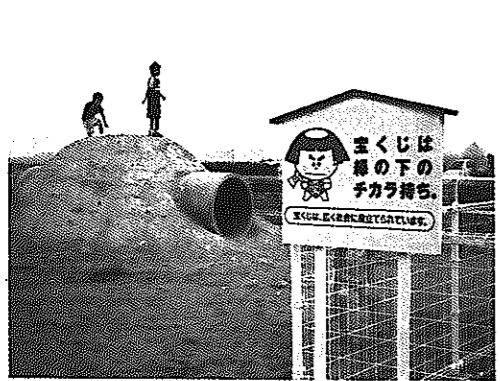


6月8日、9日の県代表決定戦で優勝したオール庄瀬

七月十三日、高松宮賜杯第四十六回全日本軟式野球大会(一部)の北信越ブロック予選会が長野県で行われました。新潟県代表のオール庄瀬は長野県代表を敗り、九月六日から広島県で開催される全国大会への出場権を獲得しました。これまで県代表決定戦での準優勝が最高位だったオール庄瀬。全国大会に向けて帯瀬和幸監督は「地元への応援があつてこそチームです。新潟県代表の名に恥じぬよう、内容のあるいい試合をしていきたい」と意気込みを話してくれました。

地域の憩いの場完成

上塩俵自治会



(株)自治総合センターの宝くじ助成金で、根岸地区の上塩俵ふれあいセンター敷地内に、新しく公園が整備されました。これは、地域の子どもたちが近くで安心して遊べる施設を確保しようとして、上塩俵自治会(大橋由和会長)が要望していたもので、六月に完成しました。園内には、築山や砂場などの遊具のほか、危険防止のためのフェンスを設置しています。また、この公園は同地域活動の拠点としても利用されます。